

参加された皆さまの発言を尊重して、修正せず当日発言された内容を掲載することを基本にしていますが、下記のとおり掲載にあたって配慮を行っています。

- ・ 発言者については氏名を記載せず、NUMO職員についてはNUMOと、ファシリテーターについてはファシリテーター、マスコミ各社はマスコミと記載しています。
- ・ NUMOの職員、ファシリテーターの方の氏名が、発言中にある場合は、そのまま記載しています。
- ・ 記載することで発言の内容がわかりやすくなり、かつ発言中の議論に影響を与えないものについては、一部加工しています。

### 寿都町 対話の場（第6回）会議録

1. 日時：2022年1月19日（水）午後6時30分から午後8時45分
2. 場所：寿都町総合文化センター ウイズコム
3. 会議録

#### （1）開会・挨拶

##### ○NUMO

皆さん、こんばんは。また、遅ればせながらではありますが、あけましておめでとうございませう。本年も、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

定刻になりましたので、ただ今より、寿都町対話の場を開催いたします。本日は、年始ご多忙の中、13名ご出席を賜っております。いつも誠にありがとうございます。それでは、早速であります。次第に沿いまして、会を進めてまいりたいと思ひます。

まずは、前回12月14日になりますが、対話の場におきまして、事務局からご提案させていただきました「町の皆さまにお集まりいただきやすい機会づくり」についてでございます。対話の場の後、具体的に作業や検討を行っているものにつきまして、本日は3点、状況をご報告させていただきます。

まず1点目でございますが、お手元にもお配りをしております「対話の場通信」についてでございます。こちらになります。前方のスクリーンにも同じものを投影してございますので、こちらを併せてご覧いただければと思ひます。前回の対話の場におきましては、この「対話の場通信」、それからNUMOが適宜、新聞などに折り込ませていただいているチラシにつきまして、「文字が小さい」ですとか、「文字が多すぎる」「何が書いてあるかよく分からない」などの厳しいご意見をいただいております。こうしたご意見から、「まずはできるところから」ということで、前回の対話の場につきましてご案内申し上げます「対話の場通信」、こちらを改善してみようということ、まずは手がけてみました。できるだけお伝えしたいポイントを絞って掲載する、見やすくするために文字を大きくしたり、文字の数を少なくする、もっと写真や画像を取り入れる、こうしたこ

などを心がけまして、お手元にお配りしているものを作りました。これは既に12月29日に発行されております町の広報誌に折り込みさせていただき、町内にお配りさせていただいているものでございます。事務局なりにいろいろと工夫したつもりでございますが、今後より良いものにしていくためにも、後ほど予定しております意見交換の場で、この「対話の場通信」はじめ、忌憚のないご意見をいただければと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

続いて2点目でございますが、「地層処分事業とはどんなものか」、あるいは「今、寿都町で行われている文献調査はどんなものか」ということなどを分かりやすく解説する、いわゆる資料を作りまして、「この一冊を見れば分かります」というような、丸わりのガイドブックのような資料、これをお作りして、町内に配布していきたいというご提案をさせていただいたことについてでございます。ただ前回は、この資料につきましては、実は、ほとんどご意見を頂戴しておりませんで、おそらく言葉のみでお伝えしたということもあり、なかなか具体的にどんなものなのかというイメージが湧かなかつたのではないかな、ということであるとか、先ほども申し上げた通り、チラシなどのイメージがあまりよろしくないということもあって、この資料も同じようなものではないかということと連想されたということもあつたかもしれません。本日は、現在どのようなことを検討しているかというような状況と、こんなようなものと考えていますというイメージ、これについて事務局からお伝えさせていただければと思います。

それでは事務局からお願いいたします。

## ○NUMO

皆さん、こんばんは。NUMO寿都交流センターの土屋でございます。ただ今、お話がありました通り、町民の皆さまにお配りする資料について、これまでの検討状況についてご報告をさせていただきます。お手元に資料がございませんので、スクリーンをご覧ください。

この一冊を見れば、町で行われている文献調査を含めた地層処分事業を知っていただけるような資料を作りたいと思っております。制作に向けたポイントとしましては、3点を意識して作成してまいります。まずは、手に取っていただかないことには、お話しになりませんので、まず手に取っていただけるもの。そして、読み込んでいただくというより、眺めていただいといるところ。そして、眺めていただいたことで、関心や次の理解につなげていただくことを留意して作成します。

まず、「手に取って」ですが、やはり表紙。見やすくキャッチーなもの。説明的ではなく、何度も中を見たくなり、保存したくなるような資料を作って参ります。サイズにつきましては、読みやすいサイズということでA4の両面の冊子状のものを考えております。紙質につきましても、できるだけしっかりとした紙。保存したいと思っただけのようなものを用意したいと思っております。「眺めて」は、ページのデザインも全体的に楽しくて明るくて見やすい、寿都の防災マップのような作り込みを意識します。また、文字につきましても、一番お伝えしたところ、そうではないところを、メリハリをもって文字の大きさや、文字数もできるだけ少なくして眺めていただきやすくしたいと思います。イラスト・写真につきましても、全体的な資料のトーンを揃え、

温かみのある色使い。そして、「一つに統合して大きく」と書いてありますが、同じページにいろんな絵をたくさん書くのではなく、できるだけ絵を一つにまとめたり、矢印などを用い、全体像なフローを見せていくことを意識したいと思います。最後に、「関心や理解に」は、基本的な内容に絞り、それ以外に知りたいことは交流センターに来ていただいたり、私たちがご説明に伺うことで、補完していきたいと思っております。また、通常皆さんがお使いになるような易しい言葉。「オーバーパック」など私たちが使う技術的な用語は控えながら、皆さんが分かりやすい、知りやすいことを主眼とし、作ってまいります。

このような資料を作成することで、賛成・反対にかかわらず町民の皆さまに地層処分事業を知っていただき、町民一人ひとりのお考えや、町内での対話を深めていただくための一つのツールとしてご活用いただきたいと思っております。

こちらが全体構成イメージです。12ページ程度で作成したいと思っておりますが、これでは字が読みにくいと思いますので、次のページをお願いします。12ページのうち最初の9ページまでは、このようなイメージで考えてございます。タイトルにつきましては、例えば、「よくわかる地層処分」ということで、絵柄も皆さんが読みやすく、親しみやすいものを作り込んでいきたいと思っております。その次に、「なぜ地層処分が必要なの?」、「どうやって地下に安全に処分するの?」、「文献調査とは」という流れとし、まず「地層処分」、「文献調査」など、町民の皆さまが関心の高いところから入ってきたいと思っております。その後、高レベル放射性廃棄物や TRU について言及した、「原子力発電所から出る廃棄物」、「高レベル放射性廃棄物の特徴」。その次の8ページは、今まさに開催している対話の場についての状況。また9ページは、「海外ではどうしているの?」として、地層処分事業に対して、先進的な取り組みをしている国はどのようなまちづくりや取り組みをしているのかということを表示していきます。11ページは、よくあるご質問として、町民の皆さんと接する中でよくいただくご質問をまとめて表現し、12ページには、お問い合わせ先を交流センターとして、町民の皆さんからの追加質問やご意見を承っていくことを考えています。

これ（会場のスクリーンに投影されているスライド）が今考えている資料のイメージです。表紙の次のページは、「なぜ地層処分が必要なの?」、その次に「どうやって地下に安全に処分するの?」ということを書いていきます。こちらの地層処分の必要性について、例えば、氷床処分、地上保管など、様々な方法を検討しましたが、やはり地層処分が一番有利ということをご説明しています。いくつもの絵を付けるのではなく、一つの絵で表現する。できるだけ皆さんの視線を動かさないよう、一瞥して見ると、大体のことが理解できるような構成を追求していきたいと思っております。次のページは、高レベル放射性廃棄物のガラス固化体を地下に埋めていくそのプロセスです。こちら、処分していくフローをイラストで解説していきます。全体的にこのようなトーンで作りに上げていきたいと思っております。

これからの進め方としては、対話の場で（案）をお示しさせていただいて、会員皆様のご意見をいただきながら、それを反映したものを町民の皆さまにお配りしたいと思っております。

私からの報告は以上です。

## ○NUMO

こちらの資料の件につきましても同様ですが、後ほど、意見交換の場で、ご意見、ご質問、ご指摘等いただければと思っております。

最後に3点目ですが、もうすでにスクリーンには出てしまっておりますが、地層処分事業について慎重・反対の考えの立場の方、これは有識者を含むと思えますけれども、お呼びして話を聞くということについてです。

話は逸れますけれども、今、対話の場からいただいたご意見に基づきまして、「町の将来に向けた勉強会」を別途やっております。現在、「地層処分事業についてまずは知ろうじゃないか」ということで、NUMOから事業の概要のご説明をしているところなのですが、一連の説明、それから、いろんな質問とかやり取りを終えた後、やはり対話の場でいただいているご要望、ご意見と同様に、慎重あるいは反対の方の考えや話を聞いてみたい、というようなご要望をいただいております。前回、このスクリーンにもあります通り、事務局から回答申し上げた通り、こうした機会の実現につきましては鋭意検討していく考えでございますが、なかなかこういう方々をたびたびお呼びするというのも非常に調整が難しく、より実現をしやすいするために、できる限りではありますけれども、対話の場とそれから勉強会、うまく共催ですとか、うまくリンケージを図りながら開催させていただければな、と考えております。したがって、本日まず、これをいつやるのかという開催時期の目途についてのご報告ということになりますけれども、今勉強会で勉強あるいは説明をさせていただいている状況からしますと、開催時期は早くても春先以降でこういった機会を作れるように調整してまいりたいと思っております。また改めて、状況などを報告させていただきながら、「いつぐらいにやっていきたい」ということでご報告させていただきたいと思っておりますが、本日の3点目につきましては、春先以降でこのような会を計画していきたいということで、ご承知おきいただければと思っております。

以上の3点につきまして、状況のご報告をさせていただきました。繰り返しとなりますが、この後予定させていただいております意見交換の場におきまして、忌憚のないご意見等をいただければと思っております。

それでは、ここから意見交換の場に入りたいと思います。ここからの進行はファシリテーター竹田先生をお願いいたします。マスコミ各社の皆さん、恐れ入りますがご退出をお願いいたします。中継は一旦ここまでとなります。

< (2) ワークショップ 非公開 >

(3) 振り返り

## ○NUMO

ファシリテーター竹田先生から、本日の対話の場につきまして、振り返りご説明を行います。ここからは再び中継いたします。なお、あくまでもマスコミ各社の皆さまへのご説明というよう

な機会を取らせていただいておりますので、いわゆる、ぶら下がり、インタビューではありませんので、ご承知おきのほどよろしくお願いいたします。トータルで10分程度を予定しており、ご説明の後、わずかの時間となるかと思いますが、ご質問もお受けすることを予定しております。

それでは竹田先生、よろしくお願いいたします。

#### ○ファシリテーター

北海道大学の竹田でございます。今日話し合われたことについてご報告させていただきます。このピンク色の紙が今日の議題です。3つありますので、そちらを最初に申し上げます。

人々が集まりやすい機会づくり。これは、町民の皆さんに情報提供する時にどういう機会を持ったら集まりやすいんですか、という議論ですね。それから、安全性についての考え方。これは、地層処分についての安全性についての考え方についての説明です。これは、これまでも何回か説明しているんですけども、やっぱりご意見ご質問が繰り返されているところがありますので、そういうようなところについて補足的に説明をした部分です。3つ目が、今後なんですけど、先日、六ヶ所村と幌延のほうに視察に行ってくださいまして報告があったんですね。その時に、「ぜひ六ヶ所村の皆さんとの意見交換をしてみたい」というようなご提案があったので、それについて、誰にどんなことを聞いていったらいいんですか、というようなところを聞きました。その3つについて今日議論をしたというところでございます。

まずは、集まりやすい機会づくりというところなんですけど、パンフレットを作りましょうということと、対話の場通信というものをNUMOさんが出してらっしゃるんですけど、それについてのご意見をいただきました。対話の場通信については、「これやっぱり年配者が読むので、横書きはダメだよ」というような意見とか、あるいは「若い人にも読んでもらいたいから、そういうところを意識してください」というような意見が出たので複数の種類、今後作るのかなというところに落ち着いている感じです。それから、内容については、特にパンフレットについてなんですけど、興味を持たせる工夫が必要だとか、初めて見る方、会員の皆さんは何回も話を聞いてらっしゃいますので慣れているんですけども、初めて見る方にとってはどうなんだろう、というところ。それから、「キャラクターを使った方が分かりやすい説明になるんじゃないか。」「用語が難しいですよね。地層処分かなり難しいところも多いので、そういうところの説明が重要なんじゃないか」とかですね、「いろんな意見に対しての回答、要するにQ&A形式みたいなやつですね、そういうのを作ったらどうか」というご意見が出ましたので、もう一度案を示すということになったところでございます。それから、これに関連してなんですけれども対話の場、これは一部公開という形でやっているんですけども、全体を公開していくということで町民の皆さんへの情報提供というものの代わりにもなるんじゃないか、というご提案もいただきました。これ今回は議論できませんでしたので、一応引き取ったという形になっています。本当に興味のあるもの、こういうこと聞きたいというところについて発信をしていくべきではないか、というところがご指摘としてありました。ここら辺に書いてあるのが、それを手書きで書いた部分ですね。メモを取った部分でございます。それから安全性についての考え方については3つ質問がありまし

て、回答をしています。「はつりガラス」について、これ非常に専門的なので、(書いてあること) その物ということになってしまいうんですけれども、「はつりガラス、TRUとして処分すると聞いたが大丈夫なのか」「ガラス固化体のガラスですね、アルカリ性に弱いと聞いたが、モルタルはアルカリ性だが大丈夫か」という話。それから「ガラス固化体の不良品、これは海外から来る場合ですね。検査されてないと聞いたが大丈夫か」。こういうようなご質問が出まして、それに対してそれぞれご回答をNUMOからしていますというようなところですね。それから、未回答のものが一箇所あるんですけれども、ガラスで固めるから安全と説明を受けたけれども固まってなくても安全、たぶんこちら辺の話と関係してくると思うんですけれども、納得できない、というところがまだ未回答という形で残っております。こちら辺は、技術的な説明に対する質問と回答というところでございます。

最後に、今日、一番私たちが議論したかったところなんですけれども、例えば、六ヶ所村等との意見交換を考えた時に、誰にどんなことを聞いてくの、というようなところですね。それについて皆さんのご意見を聞きました。相手によって、どんな話を聞きたいかが変わる。ということは、聞きたいことをしっかり考えて聞きたい人を抽出したらどうですか、というのが最初に話があって、「いろんな御商売の方がいらっしゃいますので、その中でも、福祉関係の方にどんな影響があるかを聞いてみたい」あるいは「公平な見方ができる方、複数にその方の意見とか見方を聞いてみたい」これは六ヶ所村の方に限らずということで、公平な見方ができる方というところに着目した意見でございました。それから一般の方。一般の方ですから普通の住民ですね、という方にも話を聞いてみたい。「事業所で働いている子育て世代の人、こういう所の人たちには、そういう施設で働く不安だとか、一生住み続けるのか、ということを知りたい」それから、「さまざまな業種、業種もいくつか出てきましたけれども、40年近い年月で地域の方々は、どのように意見、考えが変わっていったか。今どのように思っているのか、そういうところを知りたい」というような話が出ていました。それから、「議員の皆さんには当時のこと、意思決定のプロセスとか、そういうところを知りたい」とか、「漁業の方には風評被害の関係についての話」。議員さん、ここ2か所あるんですけれども、誘致のメリットデメリットですね。それから、若い漁業者さんについては、これは特性があると思うんですけれども、「3月まで雪が降ってるうちは漁にもあまり出れないので、こういう時を利用して漁業に関する意見交換をしてみたいんです」というようなところですね。あと商業者については、「やっぱり人口が多くなると大型店が入ってきますので、小規模事業者さんの話を聞いてみたいんです」。それから、お寺さんですね。「宗教的な変化があったとしたら、そういうことも聞いてみたいんです」、というようなところをお話しいただきました。本当にいろいろな方に話をして、六ヶ所村との意見交換をしたいといったようなご意見が出たというところでございます。

以上で、一応今日の議論の内容でございます。以上です。

## ○NUMO

若干予定の時間ございますので、もし、ご質問ある方いらっしゃればお受けしたいと思います。いかがでしょうか。

○マスコミ

模造紙に「対話の“会”」とありますが…。

○ファシリテーター

これ、間違えてますね。「対話の場」です。直しておきます。

○NUMO

他、いかがでしょうか。大丈夫ですかね。お時間になりましたので、これで振り返りを終了させていただきますと思います。どうもありがとうございました。中継はここまでとなります。